

(特非) たてやま・海辺の鑑定団

一般助成

1年目

実践

南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」 「伝える」ための仕組みづくりによる 環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動



アマモ勉強会の様子

年間通じた普及啓発活動によるリーフレットの活用枚数 **14,700枚**

ミニエコツアーの参加者数 **75人**

75人

活動の全体目標に対する達成度 **35%**

課題

自然豊かな沖ノ島。夏季は多くの人々が訪れマナーやごみ問題、さらに原因不明のアマモ場減少も進み、「仕組みづくり」による自然環境保全・再生と活用が課題となっている。

活動内容

仕組みづくり:官民連携の「沖ノ島について考える検討会議」を、年5回開催し「仕組みづくり」の必要性を確認、現状を共有することが出来た。

普及啓発活動:啓発のためのリーフレット3万枚を作成し活用。夏季はビジターセンター設置とミニエコツアーを14回開催し啓発活動に努めた。

実践活動:現状調査を行いアマモ減少の原因究明(砂の移動と食害)と再生計画を策定。また、大学施設と協力し小規模な育苗実験を行った。



ミニエコツアーの様子

今後の課題

- ルールや具体的な手法などの「仕組みづくり」の実現。
- さらに効果的な普及啓発活動を行う。
- アマモ場再生を実行する。
- 「仕組みづくり」を実現することで、「沖ノ島ブランド」を構築したい。

成果と工夫したポイント



成果

- ・「沖ノ島について考える検討会議」を5回開催し、仕組みづくりの必要性と、方向性の確認と現状を共有できた。
- ・12回の現地の潜水定点調査と、現状調査による、アマモ減少原因究明と再生計画を策定した。

工夫

「沖ノ島について考える検討会議」では、官民連携で、漁協など、業種を超えたステークホルダーが繋がった。